令和6年度　刈谷市　共存・協働のまちづくり推進委員会
第3回夢ファンド部会（公開審査会）記録

日時　令和７年１月18日（土）
午後１時30分～午後４時１０分
場所：刈谷市民ボランティア活動センター

出席者

団体名・役職等	氏　　名
愛知淑徳大学　助教	熊澤 友紀子
刈谷市商店街連盟　専務理事	柘植　　祥史
刈谷市女性の会連絡協議会　会計	加藤　　恵子
刈谷市ボランティア連絡協議会　会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院　理事長	三輪　　恒雄
防災ママかきつばた　代表	高木　　一恵
一般公募	石田　　彰宏
刈谷市民ボランティア活動センター　センター長	米田　　正寛

事務局

所　　属	補　職　名	氏　　名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	加藤　　史彦
市民活動部市民協働課	主事	和田　　佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川　　和奏
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	理事・事務局長	遠山　　涼子
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	事務局スタッフ	阿部 聡一郎
ＮＰＯ法人ボランタリーネイバーズ	事務局スタッフ	河内 かをる

1　開会・あいさつ

（１）定刻になり、市民協働課課長補佐兼協働推進係長が開会を宣した。
（２）協働推進監兼市民協働課長あいさつ

2　公開審査会

(1)まちづくり活動支援事業

１　スマイルリンク／「子ども食堂にお祭りを届けよう」

ア　プレゼン概要
・2016 年一ツ木町で地域のお祭りを復活させる事業を実施。以後 8 年継続し、毎年千名が集まるお祭りを開催した実績がある。
・子ども食堂のボランティアを経験した。貧困家庭の社会問題を体感した。

・子ども食堂の数は、2016 年度の 319 か所から、2023 年度には公立中学校とほぼ同数の 30 倍になり、貧困の課題が深刻になっている。運営資金やスタッフの不足、支援を届けるための周知・広報が不足した他、子どもの体験活動の機会が減っている。
・そこで、自分たちが得意なお祭りを子ども食堂で開催することで、子ども食堂の認知度を高めたい。
・親が忙しく、子どもとの時間や心の余裕がとれない。子どもは、親に甘えたい気持ちを我慢している。笑顔で幸せなひとときをプレゼントし、認知を高めたいと考えて提案した。
・利用者にヒアリングすると、お金がかかる地域のお祭りは行きにくい、友だちが遊ぶ中で自分はお金がなくて遊べないとの声が聞かれた。子ども食堂に足を運ぶのは人目が気になっていけない。
・子ども食堂側は、参加者が増えない、多くの方に知ってもらい、支援を増やしたい。
・実現したいことは、笑顔や元気、触れ合う時間をつくり、スタッフを楽しくすること。子ども食堂の認知を広げたい。
・お祭りの開催日は、普段 3 倍程度に子ども食堂の参加者が増えた。他にも支援する団体が増えたり、ケーブルテレビの取材を受けたりしている。
・お祭りの企画をし、様々な団体と連携・役割分担して取り組む。
・今後の展望は、地域企業に社会貢献活動の一環で寄付をいただく他、物品の寄付をうけて、備品を購入し、活動を継続していけるよう工夫する。
・地域全体で、すべての子どもが笑顔で元気に暮らせる社会を目指して活動する。

イ　質疑応答

委　員：子ども食堂に参加する子どものお腹だけでなく、心も満たし、子どもたちを見守る想いが伝わった。質問は 3 つ。①　2022 年度以降のお祭りの開催状況について、子ども食堂に参加する子どもはお祭り開催後に増えたかどうか、②　前回お祭りを開催したことで、市内 7 か所ある子ども食堂の認知度が高まったと感じたか（市内の認知度）、③　まだ開催していない他の子ども食堂で、お祭りを開催する予定はあるか。

団　体：①　お祭り開催日の参加者は増える。初めて足を運ぶ参加者もあり、増えていると感じる。②認知度は実際には把握していない。③　市内の他の子ども食堂へ声をかけて広めていきたい。

委　員：寄付金 10 万円の提供を受けているが、継続的に見込めるか。継続する場合、団体の力になると考える。

団　体：寄付金が活用できていることが認められれば、継続して寄附を受ける見込みである。

委　員：今後も継続的なこども食堂への支援や、ノウハウを他に活用する機会があるとよい。子どもの貧困は目に見えず苦労は多いが、各食堂でがんばっているので、他のところへ展開していただきたい。

団　体：他企業へ支援の声をかけているほか、半田市の子ども食堂から声をかけられるなど、次への展開を予定している。

委　員：消耗品などの変動費が中心の予算のため、補助金がない場合にどのように費用を確保するか。消耗品費の内訳は景品のため、参加する子どもの数や機会を増やすと増える。目標値があれば教えていただきたい。また、それをどのように捻出するか。

団　体：消耗品費は参加者が増えれば増える。賛同する企業も増えている。協働イベントとして子ども食堂を開催すると、地域の方も参加する。この地域は自動車メーカーがあり、収入のよい家庭も含まれる。参加した企業からは企業ＰＲの機会として満足いただけた。事業活動につながる機会として提供することで支援につなげたい。

委　員：参加者数の目標 100 人程度とあるが。

団　体：人数に具体的な目標はないが、困っている子どもに機会を提供したい。多く来てもらえた場合には、来てもらえただけ対応したい。

（来場者から質問）

来場者：子ども食堂の周知について、市内にあることを初めて知った。貧困の子どもをクローズアップすることにならないか。子ども食堂によっては対象を制限するところもある。

団　体：地域の方に広く参加してもらうことを考えている。後ろめたい、恥ずかしいと感じている人たちにも参加を広げ、コミュニティに入ってもらいたい。

【委員からの感想】

・お祭りをきっかけに来る人が増えるとよい。

・「50 円でイベントに参加できる」とあるが、子ども食堂の利用者は無料のため、差別につながらないか懸念を感じた。市内は広いので、参加者が増えて交流が増えて、成功例を広めてもらえたら嬉しい。

２　刈谷市赤十字奉仕団／赤十字ハートフェスティバルⅢ～たいせつな未来のために～

ア　プレゼン概要

・20 周年を迎えるにあたり申請した。

・会員 269 名。「自分の地域は自分たちで守る」をテーマに活動する団体。市内全域に在住し、それぞれが地域の様々な組織に所属。知識や経験を活かして、地域のニーズに応える活動をする。

・７つの取組を行っており、その中でも「子ども向け防災教育」に関して申請した。

・「子ども向け防災教育」として、小中学校、地域で防災教育に取り組んでいる。参加した子どもたちから、「大切なことを学んだ。友達がけがしたとき冷静に行動したいと思った。」などの感想をもらっており、講習を通じて子ども自身が有事の際に役立つ力を養い、子どもの未来に貢献している。その他、子どもの居場所づくりを市内３か所で開催。食事作りや防災ゲームで楽しんだ。

・「20 周年事業」では、３つの取組を行う。①防災講演会では、楽しく防災情報を学び、②防災調理体験教室は、いざというときに備える力を身に着ける、③防災かるたとして、子どもたちが読み札を考え、学校などでの子どもの居場所づくりで活用する。

・防災かるたは、遊びながら学べる防災教育のツールとして開発する。楽しみながら活用してもらい、地域のきずなをつくりたい。また、子どもたちには自分が役に立つ実感をしてほしい。子どもと一緒に地域の防災力向上を目指して取り組む。

イ　質疑応答

委　員：地域になくてはならない活動である。①　来年度以降の活動資金の準備はどのようにするか、発展性の中に収益を盛り込んでほしい。②　謝礼 10 万円の内訳、③防災かるたの対象が 1～6 年生とのことだが、メインは何年生か。

団　体：①活動はボランティアで行っているが、地区の補助金を貯めてきたお金がある。自己資金 50 万は積み立ててきたお金。日赤を母体にしており、寄付を依頼する。補助がなければできないかもしれないが、計画には取り組んでいきたい。②謝礼の内訳は決まっていないが、講師交通費を含めて計上した。かるたのイラストは中学生が関わるには時間が足りないため、専門家に安価で依頼する。合わせて 15 万とした。③募集は中学生まで声をかける。かるたの対象年齢は６年生で、大人も含めて対象としているが、子どもを想定した読み札にする。子どもたちを団体でサポートする体制で作りたい。

委　員：事業を継続していくために、収益を上げる方法についてアイディアを募っていただきたい。応援しています。

委　員：「防災かるた」もボラセンの講座での開催協力をお願いしたい。地域での展開は具体的な予定があるか。

団　体：日赤愛知県支部が居場所づくりに取り組んでいる。子どもと親、地域の人に集まってもらい、防災食を作る活動を３回開催した。子どもも楽しく参加しており、そのような機会に活用した

い。子どもが考えたことを大人が認め、みんなで楽しめる防災教室を開催したい。学んだ高校生が、今度は子どもへレクチャーする実績もある。

委　員：地域に根差したメンバーである。

委　員：学校へ配布後の活用方法について、かるたは5～10 名でやるものであり、どんな活用のされ方が考えられるか。

団　体：小学校 2 つ、中学校 1 つ、数を多くしたかったが予算内に収めた。活用のために数は増やしていきたい。小学校での展開は、これまでにも講座を開催してきており、縁のあった学校に声をかける。講座の打合せなどの機会にかるたの活用を提案して PR していきたい。作成過程で予算を見直し、できる限り部数を増やしたい。

（来場者から質問）

来場者：7 つ事業を展開する中で、子ども向け防災教育に絞った背景や想い、困っている事等があればお聞きしたい。

団　体：かるたのきっかけは、一昨年 12 月に新潟県で行った日赤研修。そこで防災かるたを知り、とてもよかったので刈谷版を作りたいと考え始まった。災害時に小中学生の活躍が期待できる。学ぶ機会があると子どもの意欲が確認できる。かるたを知ったことと、子どもたちの防災教育がマッチし、提案につながった。子どもたちが自分で考えることで、知識として身につけてほしい。

来場者：子どもたち自身にかるたを通じて防災について考えてもらえると良い。

【委員からの感想】

・20 周年事業としての提案のうち、かるたづくりが中心の事業である。収支の詳細がはっきりとしない点があった。記念誌は 500 部必要か、といった観点から見直し、講師謝礼やかるたの部数を増やすなど工夫を検討いただけるとよい。

・かるたを通じて活動を周知する機会にもなる。事業の内容をしっかりと考えていただきたい。

・費用を捻出する方法については、子ども食堂の活動と連携するなど、収益を上げる方法を考えながら取り組んでいただけるとよい。

3　結果発表・全体講評　　於：市民ボランティア活動センター

（1）結果発表

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5 点）

発表順	団体名	事業名	審査点	採否
1	スマイルリンク	子ども食堂にお祭りを届けよう	19.13	採択
2	刈谷市赤十字奉仕団	赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～	18.86	採択

・審査結果については、後日団体あてに郵送するとともに、市のＨＰにも掲載する。

・交付申請及び交付決定については、来年度４月以降に手続きを行う。

・令和７年４月１日から令和８年３月 31 日までに発行されたものが対象となる。

(2)全体講評(熊澤審査委員長)

・皆さん、素晴らしい発表をありがとうございました。
　2 団体のみなさん、採択おめでとうございます。
・かりや夢ファンド補助金は、皆さんからの寄付に市からのマッチングギフトをあわせて基金とし、刈谷のまちをよくすることを目的に、補助金を活用していただくものである。行政が取り組むまちづくりに代わり、市民による草の根活動を応援することで、多くの方に知ってもらう機会となったり、市民ならではの視点を応援していこうとするものである。
・今日の公開審査会に至るまで審査を進めてきた。審査基準に沿って「主体性・協働性」「公益性」「独創性・先駆性」「実現性」「発展・継続性」の 5 つのポイントで審査を行った。「審査する・される」関係ではあるが、申請団体と一緒に取り組む思いで審査した。
・5 つの基準を完璧に取り組むのは難しい面もあるが、話し合いの場を持ち、一緒に考えてプロジェクトをより良いものにしていくこと、審査会自体がみんなで創り上げるまちづくりという意味で重要と考え話し合いを続けてきた。
・対面で団体の話を聞くことで印象が変わったり、申請書に書かれていない情報もたくさん得たりすることができ、有益な発表であった。皆さん伝える力が素晴らしく、審査もしやすかった。

（個別団体講評）

<u>スマイルリンク</u>

・一ツ木地区のはっぴ祭りでの経験を活かしたお祭りの提案だったり、子ども食堂ボランティアでのご自身の経験をもとに、子ども食堂とお祭り、二つの活動をつなげる提案に独創性が感じられる。
・申請事業を通して、子ども食堂の認知度向上につながる点に評価が集まった。
・予算の半分が配ったらなくなってしまう消耗品。継続性の観点から、お金がない場合にどのように継続するか、アイディアを出し合ってはどうかと意見があった。例えば、刈谷市赤十字奉仕団さんの地域の居場所活動にお祭りの要素を盛り込んで継続したり、一ツ木地区で独自に展開していくことも期待できる、といった意見があった。
・子ども食堂にお祭りを合体させたノウハウを、まとめて全国の子ども食堂に届け、知識をつなぐなど、お金によらない活動として継続していけるとよい。
・地域の子どもたちだけでなく、大人も含めて活動を楽しんでもらいたいという想いがプレゼンを通じて伝わった。

<u>刈谷市赤十字奉仕団</u>

・組織として長い活動実績がある。ボランティアによる活動にも関わらず、公立学校との連携も強く、安定して実現可能性が高いと評価した。
・周年事業は大切で、新たに事業を始めるきっかけにもなり、取組のアイディアは素晴らしい。
・「防災かるた」は、作った後の取組が大事である。一組だけ学校にあっても全員でかるたを楽しむのは難しく、担任の先生も使いにくいのではないか。例えば、60 セット作ったら団体が保管しておいて、団体が学校へ赴いて学年全体でかるたをする計画にしてもよいのではないか。
・かるた製作費 10 万円について、申請時点で金額根拠を確認しておけるとより実現性が高まった。
・寄贈後、学校でどのように活用されるかは分からない。寄贈後の活用や実践を記録し、25 周年や 30 周年にむけて公表できるよう準備することも大事である。

・両団体とも高得点で採択され、素晴らしい企画と発表であった。活動を伝えることには難しさがあるが、言葉選びや熱意、気持ちが伝わる発表であり、感銘を受けた。来年度事業を実施する際には成功を祈っています。一緒に頑張りましょう。